

2021年度（総合型選抜）AO選抜入学試験
情報理工学部「グローバル・ICTリーダー方式」

【選考講評】

1. 実施状況

(1) 志願者数、合格者数等

学科・学域・専攻等	志願者数	最終合格者数
情報理工学科	8	5

(2) 本入学試験の目的

本入学試験では、本学部のアドミッション・ポリシーをよく理解し、主体的に、かつリーダーシップを持って学業に取り組む能力と意欲を持った学生の獲得を目的としました。

2. 試験内容・評価のポイント

(1) 書類審査

書類審査では、提出された書類を元に、科学技術や情報通信技術への理解・関心の度合いや、志望動機、論理的思考能力や英語の能力などについて評価しました。2020年度入試の合格者はいずれも非常に目的意識が高く、科学技術や情報通信技術へ高い関心があることが確認できました。また、自分の考えを論理的に記述する能力やそれを英語で表現する力を十分に備えていることが確認できました。

(2) 面接

英語による面接試験を実施しました。主に、英語能力や論理的思考力、リーダーシップなどを確認するために、情報理工学部情報システムグローバルコースへの入学を希望する理由や、入学後に学びたい分野・テーマ、高校時代に取り組んだ活動内容、卒業後の将来設計などについて尋ねました。合格者はおおむね、英会話が堪能で英語による面接に対しても不安などを感じる様子は見受けられませんでした。中には海外での学歴を有する受験生もいましたが、短期滞在以外は外国で暮らしたことがなく純粋に学校授業のみで英語を学んだと答えた受験生もいました。また合格者はいずれも、将来に対するしっかりしたビジョンをもっており、情報理工学部で学ぶことや留学生と混ざって英語で学ぶことに対しても期待を抱いていました。

3. 次年度受験生へのアドバイス

情報システムグローバルコースでは、入学後の学びはすべて英語になります。日常会話レベルの英語だけではなく、物事を論理的に考える力やその考えを英語で表現する能力を磨いてください。情報理工学部「グローバル・ICTリーダー方式」で合格し、入学する学生は、学生が自ら問題を発見し解決していく課題解決型学習(Project-Based Learning)の中でリーダー的な存在になることが期待されています。日頃から様々な活動においてリーダーシップを発揮できるように自己研鑽に励んでください。

その他に2.の(1)、(2)で挙げた各試験におけるその他留意点について述べます。

まず書類審査と面接に共通することですが、情報技術に関わる学問分野に、幅広く、強い関心・興味を持っていることが肝要です。情報通信分野について日頃から興味を持ち、新聞記事や海外のICT関連ニュースに触れ、情報システムグローバルコースで学ぶ目的意識を高め、将来どのようなことに携わりたいのか、そのためにどのようなことを学びたいのか、といったことについて自分なりにしっかり考えるようにしてください。

次に書類審査についてですが、しっかりとした論理的な英語の文章を書けることが求められます。与えられた題目に対して、自分の考えをよく練り、指定された単語数の中でいかにわかりやすくまとめるかが重要です。情報システムグローバルコースの学びは、英語を基本としているため、様々な科目において英語の文章能力が要求されます。英語で論理的な文章を書く能力が非常に重要です。日頃から、ICT関連の記事やニュースについて、自分の意見を、ポイントを押えて英語の文章としてまとめる練習を繰り返すといいでしょう。

最後に面接についてですが、本入試方式は今年度が4回目にあたります。この4年間の受験生に限って言えば、英語能力がおおむね高く、ほとんどの受験生はしっかりと受け答えができていました。面接では、面接官が言っていることを理解し、その場で自分の考えをまとめて答えるという、基本的な対話能力が必要とされます。これは大学における教学にも通じるものであり、非常に重要な能力です。予め想定した質問に対して答えるといった面接対策の練習をするのではなく、様々な状況において常に自分の考えをまとめ、それを表現する能力を高めるようにしてください。

以上